

新飯能

発行
日本共産党
飯能市委員会
973-1091

金子とし江
090-7265-1601
山田とし子
090-4389-4439
新井たくみ
090-4010-5650
滝沢おさむ
090-7000-4481

<議員団の連絡先>
973-2111(市役所456)
Mail jcp-sigi@pluto.plala.or.jp

国民健康保険税の大幅値上げ

保守・公明・民主の賛成で可決

3月議会に提出された22年、4月実施の国民健康保険税の大幅値上げが日本共産党以外の賛成多数で強行されました。

今回の値上げは、所得割を1・2%、均等割(一人ひとりにかかる)を4000円、さらに限度額を5万円それぞれ引き上げるもので、大幅な値上げになります。特に、市がモデルケースとして示した夫婦と子どもの4人家族で、所得200万円〜700万円の層で14



〜15%もの値上げになります。

市は平成21年3月に策定した「飯能市第二次国保財政健全化計画」にもとづいて、一般会計からの繰り入れを2億円を限度として定め、それを超える場合は値上げする。しかも、2年ごとに値上げしようというのです。

こんな無茶苦茶な計画を打ち出している自治体は、全国でもほとんど例がありません。保守・公明・民主の議員は、そのことまで無批判に受け入れてしまったのです。

国保運営協議会で山田利子市議が奮闘

3月議会前に2度の国保運営協議会に値上げ案が出されていました。委

員の日本共産党・山田市議が「市の提案は市民の苦しい生活実態を考慮していない。他市並に一般会計から繰入をして値下げを避けるべきだ」と繰り返し値上げに反対しました。

均等割りを値上げ案の半額に減額せよ

厚生文教委員会で山田市議は、低所得者に負担となる均等割りをせめて法定減免(7割、5割、2割)の世帯だけでも半額にするよう求めました。「国保財政への影響は900万円未満でできるのではないか」と再考を求めました。厚生文教委員会で、小林和子議員が値上げ案に賛成の討論を行いました。



最終日の本会議では大久保勝議員が賛成討論を行いました。採決に先立ち本会議場でも山田議員が反対討論を行いました。採決では、共産党以外の他会派(保守・公明・民主)は、市側の提案を積極的に擁護し、市民生活

をまったくかえりみない態度に終始しました。

ビラ配布逆転無罪・堀越事件

「表現の自由を保障した憲法に違反」

2003年11月、休日に自宅近くで「しんぶん赤旗」号外などのビラを配り、国家公務員法違反(政治的行為の制限)にとわれ、一審で罰金10万円、執行猶予2年とされた元社会保険庁職員堀越明夫さん(56)の



控訴審判決が3月29日、東京高裁でありました。中山隆夫裁判長は「このような被告の行為を刑罰に処することは、表現の自由を保障した憲法に違反する」として逆転無罪を言い渡しました。

堀越明夫さんは、東京高裁の裁判で言い切りました。

警察は、なんと一ヶ月にわたり、彼を尾行し盗み撮りしていました。多いい日には捜査員が11人。ビラを配る現場はもちろん、芝居の劇場、居酒屋

日本共産党演説会

政治を前に動かす 建設的野党

5月30日(日)午後2時開会
飯能市民会館小ホール

お話し: 伊藤 岳 さん
参院埼玉選挙区予定候補

国民の生活と権利を守る「ルールある経済社会」を築くために、異常な財界・大企業中心の政治転換を。憲法9条を生かし、世界とアジアの平和に貢献する「自主・自立の平和外交」に転換を。建設的野党として「国民が主人公」の民主的政治をめざす日本共産党の話しを、ぜひお聞き下さい。

波 紋

とくダネを見ていたら、小倉智明さんが「ゴミ処理場は必要だが、誰も自分のところには来てもらいたくないと思っている」と話し、続けて「普天間基地もこれと同じで、いやな思いを持っている国民はいないわけです・・・」とコメントしたのは驚いてしまいました▼普天間基地問題とゴミ処理場問題をごちゃ混ぜにして論じる愚かさもさりながら、音楽やスポーツ関係にはめっぽう強い小倉さんの情熱を、島ぐるみの怒りが沸騰している沖縄の状況や、普天間基地はいらないと考えている多くの国民の声を聞くことにも費やしてくれたらと

考えてしまいました▼アメリカに気兼ねして、新基地の「移設先」探しに躍起になっている鳩山政権に国民のイライラは高まっています。やくみつるさんの漫画ではありませんが「とにかく出てくれないといだらうがあ」というのが国民の正直な気持ちではないでしょうか。

『親学』って？ お母さんを追いつめるもの

飯能市が22年度の新規事業として取り組む事業の中に、「親学推進事業」があります。「親学」？聞き慣れない言葉です。子育てに不安や悩みを持っているお母さん達の支えになるのでしょうか？

市では、4月中に実行委員会（飯能青年会議所、青少年育成飯能市民会議、放課後児童クラブ、子育て支援団体、学校教育課、子ども家庭課）を発足させ、一般市民も参加できる親学講座・講演会をおこなう、さらに親学アドバイザーの養成講座をへて、次に認定講座を受講し、子育て・親育ちに関する適切なアドバイスができる「親子アドバイザー」として、「親学」を普及する活動を実践するとしています。



市の説明では、近年「家庭の教育力の低下」が指摘され、「親と子のあり方」という問題が顕在化してきているので、「親が変われば子どもも変わる」を基本に、親のすべきことを学んでもらい、豊かな親心をはぐくむことが目的であると書かれています。

昨年の市長選で道徳教育推進力かけ

そういえば、昨年7月の市長選挙で沢辺現市長は、「子ども達の教育が心配だ。自由をはき違えている。道徳心が必要。高橋史郎さんが言っているように、親が変わらなければ教育は変わらない。教師を含めて教育改革をすすめたい」と訴えていました。

高橋史郎氏は、『新しい歴史教科書をつくる会』の元副会長で、上田埼玉県知事が県教育委員に任命し、2006年9月には秩父市に「埼玉師範塾」を開設。高橋氏は、「現在の日本は必ずしも『美

しい国』ではなく、大和魂をとりもどす必要がある。愛国心などは誰がそれを子供の中にはぐくむかが問題であり、問われているのは人だ」と言っているように、教師や親を変えることで『日本再生』を図ろうとする人です。

男女平等・職業選択の自由・信教の自由への挑戦・逆流では

親学の教科書は、高橋史郎氏が編集者で、①教育の原点は家庭である②母性と父性の役割分担を明確化し、「教育するのは男性の役目、世話をするのは女性の役目」であると回りにくい言い方をして是認しています。③男の子らしさ、女の子らしさを子ども達の心に形成すること、性差を受け入れ、性差を活かして生きることを推奨することなどが書かれています。このことは、男女平等、男女共同参画、職業選択の自由などの考え方と相



反するものです。

しつけは大事だけど今でも精一杯なの

それにしても、親学が親、特に母親に求めているものは●子守歌をきかせ母乳で育児●授乳中はテレビをつけない●整理・整頓・掃除の習慣●本棚には良書を置き、宗教的祭壇等を設ける●乳幼児期であいさつなどの基本の徳目を、思春期前までに社会性を持つ徳目を修得させるなど、今でもギリギリ育児をしているお母さんにどう受けとめられるでしょうか。誰だってもっとゆつたり子育てしたいと思っているのではないのでしょうか。育児は「育自」というように、しっかりとしなさい、自覚しなさいといった親を追いつめたのでは、親自身が考えたり戸惑ったりしながら育っていく力を削いでしまうのではないのでしょうか。

“住民が主人公”の町 木曾町を訪ねて 交通システム、まちづくり条例など視察 住みよい飯能市をつくるみんなの会



終点まで40分ほど乗ってみました



が先日、長野県木曾町を視察しました。木曾町は日本共産党員の田中勝己さんが町長をしていることでも有名な町です。

どこまで乗っても200円

木曾町は旧木曾福島町を中心に一町三村が合併して新しくスタートした町ですが、町営の公共交通が注目されています。交通手段はバスとワゴン車の乗合タクシー（デマンドタクシー）ですが、町内はどこまで乗っても200円です。しかもその路線は、町の中心地から旧村に向けての三つの幹線とその終点で旧村内を巡回する路線、更に自宅までをつなぐ乗合タクシーがあり、実にきめ細やかに運行されています。それぞれ

れの車を降りるときに乗継乗車券をもらって乗り継げば、料金は一度払った200円だけです。国の特別交付税（8割を交付税措置）が活用されていて、こうした料金になっていきます。

合併してもこの地域も大切にされる

合併協議と並行して「木曾町まちづくり条例」の制定も検討されてきました。旧町村の4地域で地域自治組織を設立して、各地域の特色を生かした地域づくりを進めています。

また、旧町村ごとに置かれた支所の機能も総合支所方式として充実しており、支所長の裁量で予算執行が出来る地域づくり事業も注目されます。

合併すると小さいほうが見捨てられがちですが、旧町村の生活をしっかりと支え、新しい街づくりをすすめている田中町政のすばらしさを実感しました。